

令和7年度 第8回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：高校と産業界が連携した取組
- 2 日 時：令和8年2月2日（月）15：30～16：50
- 3 場 所：ピュアリティまきび（岡山市北区下石井2-6-41）
- 4 参加者：高校生、産業界、産学連携コーディネーター：7名
- 5 知事挨拶

高校と産業界の連携に加え、小中高、そして大学への円滑な接続は長年の課題である。本日は各校の優れた取組を伺えることを楽しみにしており、課題や改善したい点、困りごとなど、現場の声を聞かせていただきたい。

6 発言内容等

【自己紹介・活動など】

（高校生）

- ・若年技術者を対象とした技能五輪全国大会と若年者ものづくり協議大会の造園部門に高校生で出場し、それぞれ銅賞と銀賞を受賞した。日頃からものづくり技術の習得に励んでいる。
- ・企業との連携活動に特に力を入れており、その中でも自身が活動に最も深く関わったことで、本日、参加させていただいている。
- ・地域企業と連携し、仕入れから接客まで一貫して行う津商モールで副社長を務めた。実習を通じて、地域社会と直接繋がる経験を積むことができた。

（産業界ほか）

- ・定期的に造園の指導に赴いている。自身は技能競技大会の審査員を務めているため直接教えられないが、造園組合からの講師派遣などを通じて生徒たちの技術向上に全力でサポートしている。
- ・工業高校と連携しており、自社のシステムを紹介したり製造現場のサークル活動の発表会に学生を招待するなど、実践的な交流の場を提供している。
- ・協力企業の一社として、事業提供などを通じ、津商モールを支えている。当日も、副社長を激励しながらイベントを盛り上げた。
- ・学校と企業を繋ぐ役割を担っている。各学校の状況は多様であるため、現場に合わせた柔軟な支援を行い、学校がより良くなるよう活動している。

【企業連携の具体的な取組や自らの経験など】

（高校生）

- ・造園組合のプロから直接、実技指導を受けている。後樂園での庭園制作を通じ、自分の技術が現場でどう通用するかが体感できた。
- ・実習の一環であるデュアルシステム（学校教育と職業訓練（企業実習）を同時に行う職業教育システム）を通じ、会社見学やシーケンス制御等の実践的な学習に取り組んでいる。
- ・津商モールにおいて、マーケティングで得た知識を実践している。お客様に直接商品の魅力を伝えることで購買率が変わることを体験から学んだ。

(産業界ほか)

- ・高校との連携は、企業側もメリットがある。例えば、技能五輪国際大会（造園）に出場する社員が高校の施設で練習させてもらったり、高校生を指導することで若手の経験不足を補うなど、高校生と互いに刺激し合う関係が築けている。
- ・毎年約 40 名の生徒を週単位で受け入れながら指導を継続している。受け入れは大変だが、生徒が「学校での学びが仕事に役立つ」と実感し、学ぶ意欲につながる機会であると同時に、将来の就職先として、自社への理解を深める場と考えている。
- ・17 年続く津商モールでは、生徒が予算立てから売価決定、決算まで主体的に関わっており、これが将来の地元還流のきっかけになってほしいと思う。
- ・普通科高校でも産学連携が進んでいる。AI を活用した販促や、地元企業インタビューを通じた仕事図鑑制作など、社会と繋がる実践的な教育を展開している。試行錯誤を経て自ら考え抜く探究的な学びが、県内各地で着実に深まっている。

【課題点や今後の可能性など】

(高校生)

- ・技能五輪全国大会での受賞をきっかけに取材を受け、高校で造園が学べることや技能五輪等の競技大会の存在、造園の魅力が知られることとなった。プロから直接学べる環境を多くの人に知ってもらい、庭師を目指す人が増えてほしい。
- ・技能五輪全国大会（造園部門）では、当日渡される天然石を隙間なく積む高度な「石積み」を行った。こうした高校生の力をもっと知ってほしい。また、校内だけでなく、学外の現場で剪定などを実践できる機会を増やしてほしい。
- ・学校での予習と企業実習を並行するデュアルシステムは、会社の雰囲気を知る良い経験になる。実習で学んだ技術や知識が後の学校生活でも非常に役立っている。
- ・今年度の津商モールでは、接客やポップの質を競うおもてなしコンテストを導入した。講師を招き、事前にプロの視点で接客マナーやポップ作成を学んだことで、基本の大切さを再認識し、全体のスキルアップに繋げることができた。

(産業界ほか)

- ・造園事業者として、後樂園を庭園日本一にしたいと考えている。庭園日本一と言われている他県の美術館に負けない造園技術を高校生のうちから磨いてほしい。また、若いうちから自立して将来を考える生徒たちの姿勢はすばらしい。
- ・学生の思考力を養うサポートは、ものづくり文化の活性化と採用の両面で重要である。特定の高校だけと連携してきたが、連携先を増やしたいと考えたとき、他校のニーズを知る術が少ないため、県にとりまとめをしていただけると有り難い。
- ・岡山には独自の高度な技術を持つ優良企業が多数存在するが、教育現場にはまだ十分に知られていない。こうした魅力的な企業を発掘し、学校と結びつけるマッチングこそが自身の重要な使命である。
- ・AI が普及する時代だからこそ、人間にしかできないおもてなしの価値を重視し

ている。ポップ作成も、あえて手書きで苦労して作る経験を積むことで、将来的に AI が作ったものの良し悪しを正しく判断できる力が養われると考える。

- ・実社会に即した知識・技術等を学ぶには学校の工夫だけでは限界があり、地域や企業による支えが不可欠となっている。各校が独自の強みや魅力を持つことが重要であるが、産業界等と連携することで、生徒が特色ある学びを選べる環境が作られ、より深い学びにつながっていく。
- ・高校での学びや人との繋がりを糧に、高等教育でより専門的な技術や経営視点を磨いてほしい。そして将来は、ぜひ岡山へ戻って次代を担う人材となってほしい。

7 知事まとめ

新規学卒者の就職後 3 年以内の離職率は約 3 割を超えていて非常に高い。そのため、インターシップを経験する等、入社前に仕事の実態を納得して選ぶ仕組みが不可欠である。企業側も、3 年後のキャリア像を具体的に示すことが必要で、あえて地味な仕事や苦労する側面を正直に伝え、ミスマッチを防ぐことも重要であると考えます。また、現場社員が今の若者の感覚を理解し、入社後に価値ある経験を積ませる環境を整えることで、双方が納得できる選択を実現していく必要があります。高校と産業界とが連携した「リアルな学び」はこれらに有効と思われる。